

# 1 調査の概要

## (1) 調査目的

「小諸市こども計画」の策定にあたり、支援施策の主な対象である子ども・若者の生活状況や意見を把握するために実施した。

## (2) 調査対象・回収状況

調査は、小学校5年生、中学校2年生を対象とした「子どもの生活状況調査」、15歳～39歳の若者を対象とした「若者の生活状況調査」の2種類として実施した。各調査の配布・回収の状況は以下のとおりである。

### 子どもの生活状況調査

調査対象者	小学校5年生、中学生2年生
調査方法	小学校、中学校にて、QRコード及びURLを印字した依頼状を配布し、Webフォームによる回答を依頼した。
調査期間	2024年7月5日～2024年7月19日
配布数	694人
回収数	475人
回収率	68.4%

### 若者の生活状況調査

調査対象者	15歳～39歳の若者
調査方法	郵送にて調査票を配布し、紙調査票の返送またはWebフォームによる回答による回答を依頼した。
調査期間	2024年8月5日～2024年8月25日
配布数	1,250人
回収数	356人（うち、Webフォームによる回答は221人）
回収率	28.5%

## (3) その他

- ◆ 回答結果の割合「%」は、有効回答数に対してそれぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入している。そのため、単数回答であっても合計が100.0%にならない場合がある。
- ◆ 図表中の「n」はNumber of caseの略で、「n=」は該当質問の回答者数を表す。なお、無回答があるため設問ごとに回答者数が異なる場合がある。
- ◆ 図表のタイトルや選択肢は、簡略化している場合がある。

## 2-1 調査結果の要約：子どもの生活状況調査

### (1) ふだんの生活や勉強等の状況

- 学年別に学校の授業以外の1日あたりの勉強時間をみると、「まったくしない」の割合は小学5年生、中学2年生で変わらないが、中学生になると「1～2時間くらい」の割合が高くなり、勉強時間が伸びている。
- いつごろから授業がわからなくなったかをきくと、「小学5・6年生のころ」・「中学1年生のころ」の割合が高くなっている。学年別に学校の授業の理解度をみると、中学2年生で「いつもわかる」の割合が下がり、「だいたいわかる」「わからないことが多い」の割合が高くなっている。

### (2) ほっとできる場所

- ほっとできる居心地の良い場所としては、自分の部屋や家庭が8割程度と高くなっている。学校は60.6%、地域の公民館や図書館、公園などは42.7%、インターネット空間は51.6%となっている。
- 学年別にみると、中学2年生では、自分の部屋、家庭に次いでインターネット空間が高くなっており、子どもたちにとって重要な場になりつつある。普段の活動をみても、テレビ・インターネットを見ることや、ゲーム機やゲームアプリで遊ぶことに比較的長い時間を費やしている。インターネット等は、便利であるものの、トラブル等に巻き込まれるリスクがあり、子どもたちの情報モラルの育成が必要である。

### (3) 家事や、家族のケアの状況

- 毎日2時間以上、家事や家族のケアをしている割合をみると以下のとおりである。

	家事の手伝い	兄弟姉妹などの世話	家族の介護
毎日2時間以上している割合	5.9%	9.3%	1.3%

- 本来大人が担うと想定されている家族の世話や家事などを日常的に行っている場合は、その責任や負担が重くなり、子ども自身がやりたいことができないなど、学業や友人関係などに影響が出てしまう可能性がある。「家族のことは家族でなんとかしなければ」という思いで頑張るあまり、一人で悩みを抱えてしまう場合もあり、「誰かに頼ってもいいんだ」と思える環境を作っていくことが必要である。

### (4) 自己肯定感・将来への希望・生活満足度・孤独感

- 自己肯定感（現在の自分が好きか）、将来について明るい希望を持っているか、生活満足度をみると、中学2年生の方が低くなっている。将来について明るい希望を持っている割合は、授業の理解度が高いほど高まっている。
- 孤独と感ずることがある割合は、中学2年生の方が高い。また、国の結果よりも孤独を感じている割合が高い。
- 普段の考え方をみると、中学2年生では小学5年生と比較して「私は、なかのよい友だちが少なくとも一人はいる」など頼れる友人がいる一方、「心配ごとが多く、いつも不安だ」「新しい場面に直面すると不安になり、自信をなくしやすい」が高くなっており、心配事、不安が増える傾向にある。

### (5) 相談相手

- 相談できると思う人は、「親」が73.3%と最も高く、次いで「学校の友だち」が64.6%となっている。一方「だれにも相談できない」「相談したくない」をあわせて14.1%である。

- 相談できない／したくない理由としては、「だれにも知られたくないことだから」「自分の欠点や失敗を悪く言われそうだから」「相手にうまく伝えられないから」「いやなこと、できないことを言われそうだから」となっている。

## (6) 利用したい施設・サービス

---

- 施設・サービスのうち、利用したことがあるものは「図書館やこもテラスなどの公共施設」が49.3%、次いで「放課後や休日を過ごすことができる場所」が37.1%となっている。利用したことで生じた変化は「友だちが増えた」「生活の中で楽しみなことが増えた」「ほっとできる時間が増えた」が挙げられている。
- 利用したことはないが、あれば利用したい場所としては、「勉強を無料で見てくれる場所」「夕食が無料か安い場所」が2割弱程度みられる。

## 2-2 調査結果の要約：若者の生活状況調査

### (1) 就業者の時間的・経済的なゆとり

---

- 就業者に時間的なゆとりをきくと、「ゆとりがない」「どちらかといえばゆとりがない」をあわせた割合は53.1%である。年代別にみると、年齢が上がるにつれて時間的なゆとりがないという回答が増えている。
- 経済的なゆとりをきくと、「ゆとりがない」「どちらかといえばゆとりがない」をあわせた割合は69.8%となっている。年代別にみると、大きな違いはないが10代の就業者で「ゆとりがある」の割合が高い傾向にある。

### (2) 結婚の状況・希望

---

- 回答者のうち、結婚していない人の割合は52.2%である。結婚していない人のうち「いずれ結婚したい」と考えている人は56.5%である。「結婚するつもりはない」は12.4%、「わからない」は31.2%である。
- 結婚していない理由は、「適当な相手にめぐりあっていないから」が47.6%と最も高く、次いで「経済的に余裕がないから」が38.8%、「結婚するには若すぎるから」が35.9%となっている。
- 夫婦の知り合ったきっかけは、「職場や仕事、アルバイト関係で」が最も高く32.1%、次いで「学校で」が22.0%、「友だちやきょうだいを通じて」が18.2%となっている。

### (3) 理想の子どもの人数

---

- 理想の子どもの数の平均は2.57人、実際に持つつもり子どもの数の平均は1.98人となっており、理想と実際の人数に乖離がある。理想の人数より実際の人数が少ない理由としては、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」の割合が最も高く86.2%となっている。次いで「自分の仕事（勤めや家業）に差し支えるから」「自分または配偶者の年齢的理由から」が理由として挙げられており、経済的負担や年齢的理由が乖離の要因となっている。
- 出産し、子どもを育てていくために、今後更に必要だと思うことをみると、子どもがいる人は「3歳未満児保育の費用の軽減・無償化」「妊娠・出産に伴う医療費補助の増額」「大学・短大・専門学校等の教育費の軽減の拡充」の順となっており、経済的負担の軽減を重視しているといえる。

### (4) 自分にとってほってできる居場所

---

- 自身にとっての居場所（ほっとできる場所、居心地の良い場所など）をきくと、「自分の部屋」「家庭」が高いが、「インターネット空間」を挙げる人も多くなっている。
- 年代別に違いが見られ、10代は「学校」「職場」「図書館や公民館、公園など、現在住んでいる地域にある施設」、20代は「インターネット空間」が高い。
- 幸福度別にみると、幸せであると回答した人で「自分の部屋」「家庭」「学校」をほっとできる居場所と回答している傾向にある。また、孤独感別にみると、孤独を感じている人で「自分の部屋」「家庭」「学校」「職場」にほっとできる居場所がないと回答している。
- ほっとできる居場所があることで、幸福感の上昇、孤独感の低下につながるといえ、ほっとできる場所を増やしていく必要がある。

## (5) 生活の満足度

---

- 生活に対する満足度について、0～10点で聞いたところ、平均は6.30点である。小中学生では8.01点であり、15～39歳の方が低くなっている。
- 属性別に生活満足度をみると、年代が上がるにつれて低下傾向にある。職業では「パート・アルバイト・非常勤職員」「自営業」「現在、働いていない／家事手伝い」層で低くなっており、仕事をしていなかったり、収入が不安定な職業で下がる傾向にある。
- 時間的、経済的にゆとりがないと回答した人や年収が低い層においても、生活満足度が低下する傾向にある。自分自身についての考えと生活満足度の得点との関係を見ると、どの項目においても、肯定的な考えの人と否定的な考えの人で生活満足度に差がみられ、否定的な層で生活満足度が下がっている。特に違いがあるのは「幸せである」「家族や周りの人に大事にされている」「人や社会の役に立ちたいと思う」で否定的な層で下がっている。

## (6) 相談先や悩みごと

---

- 今、悩んでいることや心配なことが「ある」との回答は、72.4%であった。
- 年代別にみると、10代は「進学・就職のこと」「勉強のこと」、20代は「お金のこと」「仕事のこと」の割合が高くなっている。30代は「お金のこと」「仕事のこと」に加えて「家族・子育てのこと」の割合も高い。年代が上がるにつれて、悩みごとが増えている傾向がみられる。
- なお、相談する人がいない人は9.9%であった。

## (7) 利用したい施設・サービス

---

- 若者向けの施設・サービスのうち、利用したことがある場所では「自分や友だちの家以外で、自習したり学校帰りにほっと休んだりできる場所（図書館、交流センター、こもテラス等）」の割合が41.6%と高く、次いで「家や学校・職場以外で何でも相談できる場所（電話やネットの相談を含む）」5.9%となっている。
- 利用したことはないがあれば利用したい割合をみると「自分や友だちの家以外で、夕ごはんを無料か安く食べることができる場所」が47.3%で最も高く、次いで「勉強を無料でみてくれる場所」が44.6%となっている。

## (8) 定住意向

---

- 本調査（15～39歳）の小諸市への定住意向は、「住み続けたい」46.3%、「住み続けたくない」10.1%となっている。年代別にみると、年代が上がるにつれて「住み続けたい」割合は高くなっている。
- 居場所との関係を見ると、「住み続けたい」と回答した人で「図書館や公民館、公園など、現在住んでいる地域にある施設」をほっとできる居場所と回答しており、定住意向と公共施設、公園などの利用状況との関連がみられる。
- 本調査と令和5年度こもろ・まちづくり市民意識調査の一般市民の回答結果と比較すると、本調査の方が「住み続けたい」割合が18.3ポイント低く、「どちらともいえない」の割合が13.9ポイント高くなっており、本調査の回答者（15～39歳）で定住意向が低くなっている。
- 住み続けたい理由は、「持ち家があるから」「愛着があるから」「住環境がよいから」などとなっている。
- 住み続けたくない理由としては、「他の市町村に魅力を感じるから」「交通の便が悪いから」「買い物不便だから」などとなっている。